未来へ伝える

横芝光町の文化遺産

― 次世代に守りつなぐ、歴史と伝統―

横芝光町には、長い歳月の中で受け継がれてきた貴重な歴史遺産が数多く点在しています。それらは、地域の発展とともに育まれてきた文化や信仰、暮らしの営みを現代に伝えるかけがえのない財産です。歴史遺産を守りながら次世代へと継承していくことは、町の歩みを見つめ直し、未来へつなげていくための糧となります。

Messages to the Future Cultural Heritage of Yokoshibahikari
—History and Tradition Preserved and Passed Down to Future Generations—
The town of Yokoshibahikari is home to many valuable historical sites and a cultural heritage that has been passed down through generations. These irreplaceable assets convey to the present day the story of the culture, beliefs, and ways of life that have grown with the local community. The preservation and handing-down of this historical heritage to future generations serves as a foundation for us to reflect on the town's journey and carry its legacy forward into the future.

四柱の神々が見守る古社の拝殿

屋形四社神社本殿・拝殿（町指定有形文化財）

タケハヤスサノオノミコト　アマツコヤネノミコト　ワケイカヅチノミコト　すがわらのみちざね
建速須佐之男命、天津兒屋根命、別雷命、菅原道真の四神を祀る由緒ある古社「屋形四社神社」の社殿。立身出世や学業成就などにご利益があるとされています。


拝殿

当時の地域の勢力や文化を伝える貴重な史跡

中台（芝山）古墳群（国指定史跡）

殿塚は長さ88メートル、高さ13メートルと、山武地方でも最大級の墳丘墓です。規模や出土品から、当時この地を治めていた有力者の墓と考えられています。一方、長さ58.5メートル、高さ6メートルの姫塚は保存状態が特に良く、ほぼ完全な形の埴輪列が発掘されました。いずれの古墳も、6世紀中頃から6世紀後半にかけて作られました。


殿塚


姫塚

祈りの心を今に伝える三尊の仏

阿弥陀三尊像（町指定有形文化財）



宝米・明光院の阿弥陀堂に保管され、地域住民の信仰の対象となってきました。平安時代から鎌倉時代頃に制作されたものと考えられています。

長い歴史の中で受け継がれた木造仏像

木造阿弥陀如来坐像（県指定有形文化財）

11世紀後半から12世紀前半頃に制作されたと考えられる歴史ある仏像です。像の高さは53.3センチで、ヒノキ材の割矧（わりはぎ）造によって漆箔で仕上げられています。木戸・辻観音院に保管されており、穏やかでやさしい表情が特徴的です。



鬼来迎の歴史を刻む優品

広済寺の鬼来迎面（県指定有形民俗文化財）

「鬼来迎」の上演で使用された面（13面）です。その中でも、鬼婆（奪衣婆）、黒鬼、赤鬼の3面は、鬼来迎が初めて演じられた当初に作られたものと伝えられています。その他の10面は、後に制作されたもので、塩ふり（舞台浄め）4面、倶生神1面、閻間大王1面、鬼婆（奪衣婆）1面、赤鬼1面、黒鬼1面、観音菩薩1面です。



原風景が広がる自然の聖域

浅間神社の森（町指定天然記念物）



市街地に残された自然豊かなスダジイ林として学術的にも貴重な存在。中には樹齢数百年にもおよぶ大木も見られます。標高約20メートルの小高い丘陵の頂上には浅間神社が鎮座しています。

神秘的な存在感を放つ大樹

町原大銀杏（県指定天然記念物）

稲荷神社にそびえ立つ樹高約25メートル、幹回り約6.5メートル、樹齢は推定500年といわれている大イチョウ。根の一部が乳房のように見えることから「乳銀杏」の名でも親しまれ、女人信仰を集める木として古くから親しまれてきました。



小さな町にも、誇るべき歴史



西山 太郎 さん
- 横芝光町文化協会会長
- 横芝光町文化財審議会会長
- 横芝光町ふるさと歴史ロマン研究会会長

「歴史の面白さ」を簡潔に表現するなら、「小さな貝塚も、大きな歴史のひとつ」ということでしょうか。横芝光町でも複数の貝塚が見つかっていますが、貝塚はそこに人が住んでいたことの証ですし、貝は海に行かないと採れないため「海に行く手段があったこと」がわかり、どんな貝を食べていたかを調べることで当時の食について学べます。最近では、令和4・5年度に行われた圏央道（大栄JCT ～松尾横芝IC）建設に伴う発掘調査により、15艘もの丸木舟が出土するなど、面白い歴史の欠片が見つかりました。こういったものから過去の情報がわかっていくのが面白味ですね。

私は横芝光町の歴史の中でも、特に坂田城関連のものが好きで、今でも県史や町史の文献を読んで調べて、理解を深めています。坂田城も、人によって解釈や解説が違うのが面白いんですよ。資料を読み解き、自分なりに解釈し、梅まつりでの坂田城ガイダンスなどで人々に伝える活動もしています。他にも、小学校で講演をしたり、図書館で歴史展を開いたり、解説をまとめた冊子の頒布をしたりなど、「機会があれば、話し、伝えていく」ということを意識してますね。

私は、「城のあるところには伝統がある」と思っていて。横芝光町には博物館がないからこそ、歴史や文化、伝統という大切なものを、私たちが伝え、繋いでいかねばと思っています。ここは小さな町ですが、誇れるものがある町なのだと、胸に留めていきたいですね。